

英語科学習指導案

平成29年1月24日(火) 5校時

第1学年4組 31名

場 所 時津町コスモス会館

指 導 者 教諭 浦 将史

1 単元名 Daily Scene 6 ちょっとお願い NEW HORIZON English Course 1

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、Unit10 で学習した can を、会話活動を通して身近な場面で活用することができるようになることを目指している。人に許可を求めたり (Can I ~?)、依頼したりする表現 (Can you ~?) を理解し、場面に応じて自分の意思を伝えることができるような指導に努めたい。

学習指導要領解説の「言語活動の取扱い」の(ウ)で、言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすることと示されている。本単元の言語使用場面としては、「家庭内での親子のやりとり」を通して、窓を開けてもよいか許可を求めたり、宿題を手伝ってほしいと依頼したりと日常的に起こりうる場面が示されているが、さらに「ピザのオーダー」をするときの電話での会話(英語指導力向上地区別研修会資料)を設定することにより、初歩的な語彙や表現を用いて、場面に応じた会話ができる力を育成したい。身近な話題に興味を持ちやすいことから、生徒たちが自分自身の考えを積極的に伝えようとするのが期待される。

(2) 生徒観

大学との連携の一環として、9月にスピーキングにおけるパフォーマンス評価(ルーブリック)を実施した。テスト内容は、自己紹介時に使われる簡単な会話表現やイラストについての英問英答である。以下は本学級生徒の結果である。

【スピーキング評価ルーブリック】受検者30名

	評価尺度	生徒の数(%)
5	各質問項目を完全に理解し、自然に応答ができている。	6人(20%)
4	質問はほとんど理解できているが、質問を繰り返さないと理解できない場合も見られる。また、応答が十分とは言えない。	11人(37%)
3	質問はほとんど理解できているが、質問を繰り返したり言い換えたりしなければ理解できない場合がある。質問の意味を理解するのに時間がかかる場合があり、応答する表現形式がまだ限られている。意図がはっきりしない応答が時々見られる。	9人(30%)
2	繰り返し質問したり質問を言い換えたりしても、質問の意味を理解し質問に応答するのに難がある。応答可能な表現形式がまだ極めて少なく、不明な応答も多い。リスニングに関して一層の努力が必要である。	2人(7%)
1	ほとんどの質問が理解できず、応答も難しい。応答しようとしても、質問者に意図が伝わらないものが多い。	2人(7%)
0	質問に応答しようとする姿勢が見られない。	0人

本学級の平均は 3.57 で、学年全体では 3.46 であった。今回、次のような生徒の実態が明らかになった。

- ① Do you ~?あるいは Is this ~?という be 動詞の疑問文に対する返答として、No, I'm not.という答え方を
するものが極めて多かった。
- ②主語代名詞が抜けている英文 (I like baseball.) を話す生徒が多かった。
- ③ How old are you?を理解できてない生徒が極めて多かった。
- ④上記以外にも冠詞を落とす生徒がかなり多かった。

以上のような実態から Q&A の練習を帯学習で取り入れたり、発音やリンキングに注意しながら音読させたりするなどの実践をしている。

本学級の生徒は、このような発音練習などの英語を発する活動には意欲的に取り組んでいるが、Writing において苦手意識を持つ生徒もおり、4 技能をバランス良く育てていくことが課題である。「話すこと」については、全体として応答する際の表現の幅を広げることが必要であると考え。やりとりによる会話活動を継続して行わせることにより、表現力を高め、書くことにおける指導にも役立てたい。

(3) 指導観

今年度、「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の研修協力校に指定され、長崎大学言語教育センターの廣江教授の指導の下、研修を進めてきた。研究テーマを「既習事項を最大限活用して、身近なことを表現する生徒を育成するための指導方法の工夫」～Focus on Speaking skill～とし、具体的実践事項を①既習事項を総合的に使ったコミュニケーション活動の実践 ②場面設定を明確にした言語活動の実践 ③ルーブリックの活用・パフォーマンス評価の実践 ④ Can-do リストの活用とした。

本時は、②を意識した授業展開とし、英語指導力向上地区別研修会で扱ったものを 1 年生用にアレンジした「ピザのオーダー」を題材とした。文法指導（ターゲットとなる表現）を身近な場面設定の中で、自然と生徒に理解させることにつなげたい。まず、ピザに関する Brainstorming、Vocabulary から題材に関する関心を持たせ、Dialogue を使用して、Listening や Reading、Writing から Role-Play へと展開してターゲット文の定着を図る。店員と客のやりとりの内容に限りがあり、展開としては理解しやすく、ターゲットとなる表現を理解することも比較的容易であると思われるが、have a pizza や have your name などこれまで馴染みのない表現もあるため、自作の対話映像を見せることによって内容を理解させる一助としたい。また、「～できる」という意味での can との比較は必要であるが、混乱を避けるため本時では、「許可・依頼」にフォーカスして指導し、次時で具体的な文法解説を行う。

3 単元の目標

<関心・意欲・態度>間違いを恐れず、意欲的に表現活動に臨む。

<表現の能力>場面に応じて相手に依頼したり許可を求めたりしながら、会話を継続させようとする。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	外国語表現の能力
	話すこと
間違いを恐れず、意欲的に表現活動に臨むことができる。 [観察]	場面に応じて相手に依頼したり許可を求めたりしながら、会話を継続することができる。 [観察]

5 単元の授業計画（全2時間）

時数	パート名	学習内容	学習活動	評価
第1時 (本時)	Daily Scene 6 ちょっとお願い	ピザをオーダーをしよう	ピザのオーダーする場面設定の中で Can I ~? Can you ~? を学習する。	関心・意欲 表現の能力
第2時		身近な人をお願いをしよう	親子の対話の場面で、ターゲット文を再確認する。	関心・意欲 表現の能力

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・間違いを恐れず、意欲的に表現活動に臨むことができる。(関心・意欲・態度)
- ・場面に応じて相手に依頼したり許可を求めたりしながら、会話を継続することができる。(表現の能力)

(2) 本時の展開

	生徒の学習活動	教師の支援	形態
導 入 (5min)	1 Greeting 2 Weather, day, date,&time 3 Q&A 4 Introduction Practice	・英語の曲を流して英語学習の雰囲気づくりから始める。 ・できるだけ多くの英語を発話させ、ドリル学習をすることで英語を使うことへの自信をつけさせる。	(全体) (ペア→全体) (全体) (個人)
展 開 (43min)	ピザをオーダーしよう < Can I ~? Can you ~? の使用場面を知り、活用する >		
	5 Brainstorming ○ピザのトッピングをペアで出し合う	・How many pizza toppings do you know? 等と問いかけ情報を共有する。	(ペア)
	6 Vocabulary ○英⇄絵をマッチングする。	・本時に関連する語を導入し、関心を持たせる。答えを確認したあと、音読練習する。	(個人) シート
	7 Understand the Conversation ○対話の内容を理解する。	・初出の表現が含まれているため対話映像を流して理解を助ける。	(個人)
	8 Listening ○対話文中の空欄を埋める。	・Can I ~? Can you ~? を空欄にし、本時のターゲットを意識させる。言語の使用場面から意味を推測させる。	(個人) シート
	9 Analysis ○Can I ~? Can you ~? についての説明を聞く。	・それぞれの英文は誰が使用したのかを確認し、日本語の意味や使い方を簡潔に説明する。	(全体)
	10 Practice ○音読練習 全体→ペア	・ペアで読み方等は教え合う。高低を入れて発話できるように支援する。	(ペア)

	<p>11 Make your own conversation</p> <p>○対話の一部を変換し練習する。</p> <p>○店員役は客のオーダーを聞いて、トッピングと電話番号をメモする。</p>	<p>・店名、トッピング、電話番号、名前を自由に変えて、より実践的に対話させる。本時のターゲット文をさらに理解させたい。</p>	(ペア)
	<p>12 Role-Play</p> <p>○教室で使いそうな Can I ~? Can you ~?の文を2文ずつ書く。</p> <p>○グループで教師役と生徒役に別れ、Role-Play する。</p>	<p>・教師と生徒が教室内で使いそうな表現を書かせる。混乱させないように教師は Can you ~?,生徒は Can I ~?を使った文を作らせる。Role-Play では1分で教師役と生徒役を交代させる。参考になる表現は、共有する。</p>	(個人→グループ)
まとめ (2min)	<p>13 Reconfirm the target sentence</p> <p>○ターゲット文の再確認をする。</p>	<p>・ Can I ~?Can you ~?を再提示し、次時に別の場面で再練習することを伝える。</p>	全体

(3) 本時の評価

- ・間違いを恐れず、意欲的に表現活動に臨むことができたか。(関心・意欲・態度)
- ・場面に応じて相手に依頼したり許可を求めたりしながら、会話を継続することができたか。(表現の能力)